

MYP の取り組み その9

— 多様な活動を通して身に付ける ATL スキル —

An Approach to MYP Part 9

Approaches to Learning (ATL) Skills Acquired Through Various Activities

外国語科

秋森久美子 雨宮真一 後藤葵 小林万純 小松万姫 澤田光穂子
徳初美 堀見絵里沙

はじめに

次期学習指導要領の改訂における議論で「育成すべき資質・能力を整理する必要がある」と謳われていることを受けて、外国語科では2014年度より、「育成すべき/したい資質・能力と観点別評価に基づいた多様な探究型授業」をテーマに

- (1) 評価規準に即した評価課題や学習活動の検討
- (2) コミュニケーション態度の育成
- (3) 英語運用能力の育成

の3つの課題について重点的に研究を進めてきた。

2015・2016年度は、国際バカロレア中等教育プログラムにおける育てたい学習者像の中から特に「Communicators (コミュニケーションができる人)」の資質・能力に注目し、よりよい Communicators であるために求められる資質と英語運用能力について共通理解をはかり、目標、評価、指導の一体型の授業のあるべき姿を検討した。

2017年11月24日に行われた平成29(2017)年度 TGUISS 授業研究会では、学校として各教科で育成すべき資質・能力を以下の3つの要素を基に視覚化したものを途中の段階ではあるが発表しており、図Iはそれを外国語科(英語)として示したものである。

- ・本校で使用している評価規準
- ・ATL(Approaches to learning)→IBの示す「学習の方法」のスキル
- ・次期学習指導要領における資質・能力の3つの柱
(知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性)

これらの育成すべき資質・能力をどのようにして育成していくかを示すものを本校では「学びの地図」と称してその作成に着手しているが、外国語科では、2つ目の要素、ATLスキルに焦点を当て、英語運用能力の育成と併せて今年度からさらに研究を進めている。

外国語科の授業の大きな特徴としては、教員ではなく生徒自身が積極的に活動している時間が多いことが挙げられる。教員は授業のファシリテーターやアドバイザー、デベロッパーとして存在し、生徒自身がひとつひとつの学習活動に仲間と取り組んでいく中で、新しい知識や技能を獲得していけるよう支援している。そのため、授業内では実に多様な活動が行われている。ディスカッションやプレゼンテーション、インプロンプト(即興)スピーチ、ライティングなどの活動を日常的に、少しずつ、繰り返し行うことによって、生徒はこうした活動に抵抗なく取り組めるようになり、それらのスキルを「自分のもの」として獲得していく。また、こうした

活動の一つ一つを通じて習得したスキルは、多様な評価課題によってその都度評価されるため、生徒にとってもどのスキルの獲得を目指すべきかが分かりやすくなっている。外国語科では、これらの「教員が伝達する知識・技能」－「生徒が体験する学習活動」－「評価課題」の3つが密接にリンクし、それらが多岐に渡っていることを意識しながら、学習活動を組み立てるよう努めている。

上述の授業研究会では、「コミュニケーション」「社会性」「自己管理」「リサーチ」「思考」の5つのATLスキルの中の「思考」スキルに焦点を当て、「批判的思考スキル」「創造的思考スキル」「転移スキル」と分けられた中の「批判的思考スキル」と「創造的思考スキル」の育成を目指した授業実践の一端を紹介し、その後の分科会では公開した授業に関して研究会参加者と活発な情報交換、意見交換を行った。

本稿では、同授業研究会の資料の一部と本校4年生（高校1年生）の一部の生徒対象に試験的に行ったアンケート結果を資料として紹介する。

1. 外国語科の目指す資質・能力の育成

(1) 外国語科の評価規準に基づく学習活動

【図1】 外国語科の評価規準に基づく学習活動

ATL		規準 A	規準 B	規準 C	規準 D		
		リスニング	リーディング	コミュニケーション	言語の使用		
コミュニケーション	コミュニケーションスキル	聞く・観る・読むことによる解釈		ディスカッション プレゼンテーション インタビュー ディベート インプロンプト・スピーチ プリペARED・スピーチ スキット エッセー レビュー	ピア・レビュー		
社会性	協働スキル	ピア・リスニング	ピア・リーディング				
自己管理	整理整頓する力	メモ・ノート取り	サマリー	ノート・ジャーナル・エッセー・レポート ブルーフリーディング・クリエイティブライティング	文法・単語・発音		
	情動スキル					精読	
振り返りスキル	データアナリシス						
リサーチ	情報リテラシースキル	ニュース・映画・番組 解釈・分析	クリティカルリーディング			プリペARED・スピーチ スキット エッセー レビュー	文法・単語・発音
	メディアリテラシースキル		詩・小説の読解				
思考	批判的思考スキル						
	創造的思考スキル						

※資質・能力の3つの柱の色分け

知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
-------	-------------	-------------

＜参考：ATL スキル＞

1. コミュニケーションスキル：相互作用を通して思考やメッセージ、情報を効果的にやりとりする。情報を集め、やりとりするために、言語を読み、書き、そして用いる。
2. 協働スキル：他者とともに効果的に取り組む。
3. 整理整頓する力：時間と課題を効果的に管理する。
4. 情動スキル：心理状態の管理。
5. 振り返りスキル：学習プロセスを(再)検討する、ATL スキルを選択し用いる。
6. 情報リテラシースキル：情報を見つけ、解釈し、判断し、創造する。
7. メディアリテラシースキル：考えや情報を用い、創造するためにメディアと付き合う。
8. 批判的思考スキル：論点や考えを分析し、評価する。
9. 創造的思考スキル：今までにないアイデアを生み出し、新しいものの見方を検討する。
10. 転移スキル：スキルと知識を多角的な文脈において用いる。

(2) 外国語科の学習内容・活動実践例

本校の外国語科の授業では、様々なスキルの獲得を目指した活動を日々行っている。前述の表に示した学習活動の多くは 1～6 年の全ての学年で実施されているが、以下にその活動の一部を具体例として示す。なお、本校では約 1 年以上英語圏で英語を学習してきた経験のある生徒を Advanced クラス (1～4 年)、それ以外の生徒を Core クラス(1～4 年)、Basic クラス(4 年)とし、クラスごとに授業を行っている。

【図Ⅱ】外国語科の学習内容・活動実践例

キーワード	学年・科目	学習内容・活動
ノート取り	1 年 Advanced	効果的なノートの取り方について様々な方法を論じた文献を読み、自分に最も合っていると思う方法を実践する。
クリティカル リーディング	1 年 Advanced	広告を分析し、その背景や目的について考える。
ディスカッション	1 年 Advanced	毎回の授業の始めに前回の授業で学んだことやその目的をペアで振り返る。
ディスカッション	1～3 年 Advanced	小説を読み、その内容についてグループやクラスでディスカッションを行う。
聞くことによる 解釈	1 年 Core	テレビ広告を視聴、理解し、内容や制作の意図などを批判的に考察する。
ディスカッション	1 年 Core	テーマごとに A と B どちらのほうが良いと思うか、理由とともに意見を述べて話し合う。
インプロンプト スピーチ	1 年 Core	与えられたトピックについて即興でパートナーと会話し、話題を広げる。
ピアレビュー	1 年 Core	録音した会話やスピーチをペアで聞きあい、内容、言語について振り返り、次回からの発信に生かす。
文法・単語・発音	1 年 Core	文法問題集や授業中のハンドアウトを中心として、基礎的な語彙・文法を習得し、発信活動に生かす。

国際中等教育研究

ニュース・映画・番組解釈・分析	2年 Advanced	言語が変化していくことに関して論じた TED Talk を見て、その内容や構成を解釈する。また、映像の内容について分析したり、自身の考えを発したりする。
インプロンプトスピーチ	2年 Advanced	毎回の授業の始めに、与えられたトピックに従って2分間の即興スピーチを行い、お互いにアドバイスをする。
メディアリテラシー・プレゼン	2年 Advanced	小説の内容と映画を比較する。何に着目して比較するかを話し合い、その結果をプレゼンする。
小説の読解	2年 Core	小説 (retold) を読んで、大筋、詳細の内容について理解する。
サマリー	2年 Core	ニュース記事を読み、5W1H 情報を中心として自分の言葉で要約を述べる。
メモ・ノート取り	2年 Core	読んだ小説やノンフィクションのストーリーを章ごとに、分かりやすく絵やメモで読書記録をつける。
ディスカッション	2年 Core	ノンフィクションストーリーを読み、自分の考え、意見をグループで話し合い、グループとしての意見をまとめる。
ジャーナル	2年 Core	日々の出来事について 5W1H 情報を基本とした記録を日常的につける。
インプロンプトスピーチ	2年 Core	写真から物語を想起し、即興で起承転結の整ったスピーチを行う。
文法・単語・発音	2年 Core	文法問題集や授業中のハンドアウトを中心として、基礎的な語彙・文法を習得し、発信活動に生かす。発音記号を学習し、辞書から正しい発音を導き出す。
スキット・クリエイティブライティング・スキットの解釈・分析	3年 Advanced	レッスンのテーマに関する事例を物語調にしたものを各グループに提示し、その続きを考えさせ、全てをグループで演じさせる。スキット後、全体でどのようなことが問題であったか、どのような解決策を取ったのか、もっと良い解決策が考えられるかなどを検討する。
エッセー	3年 Advanced	各レッスンのテーマ、もしくは身近なテーマを題材とし、限られた時間の中で問われている内容を全て把握し、理由や例などを明確に論じながら自分自身の意見を記述する。
ピアレビュー	3年 Core	各自が書いたパラグラフのワークシートを交換し、構成や内容をグループでお互いに評価・コメントを書き込み、口頭でも伝える。
文法・単語・発音	3年 Core	各レッスンで出てくる文法事項、語彙の使い方を学んだ後でそれらを含む英文を読み、それらを使ってパラグラフを書く。また、定着させるために注意深く復習をする。声に出して読む、話す、といった活動では発音も学ぶ。
ディスカッション・インタビュー	3年 Core	各レッスンの内容に関するディスカッションを行う。そこでは振り返りスキル、思考スキル、転移スキル、協働スキルなど総合的に使って決まった答えのない内容について意見を出し合い、発表をする。また、レッスンの内容に関するインタビューは、さらにインタビュアーの意図を読み取りながら創意工夫して答える。
ノート取り	4年 Basic	英文を読んだり聞いたりしながら重要だと思われる情報や内容を書き取り、自分で取ったノートを使って内容把握や解釈の問題を解く。なお、答えを発表する際には、根拠を説明する場合があるので、ノートを取る際には、その点も想定しつつ取り組む。

読むことによる 解釈・クリティカル リーディング	4年 Basic	英文を読み、内容把握・解釈をする。その際、批判的思考力を養うために、客観問題に加えて、行間を読み取る、作者の意図やメッセージを読み取る、各自の経験や知識と照らし合わせて意見交換を行う、といった活動を行う。
聞く・観ることによる 解釈	4年 Basic	コマーシャルや映画の予告の動画を観て情報を得たり、内容を解釈したり、作品のメッセージや使われている技法を分析したりする。
インタビュー	4年 Core	各レッスンの内容についてサマリーを伝えるとともに、その内容についての意見を述べる
精読・文法・ 単語・発音・ サマリー	4年 Core	教科書の内容を読み取り、文法や語彙の使い方を学ぶ。 その後、自分なりに内容を要約し、発表する。
ピアリーディング ・サマリー	4年 EE Core	二つのグループを作り、個人だけの力では読むことが困難な文章を前半のみを読むグループと、後半のみを読むグループに分かれる。辞書や教員の助言を参考にしつつ、グループ内で言葉やイディオムの意味・文法などを考えながら読解し、要約する。もう一つのグループにサマリーを伝え、全ての内容についての問題に答える。
ディスカッション・プレゼン テーション	4年 EE Core	各レッスンのテーマについて調査をし、ワークシートを使ってグループで様々な問題点についてディスカッションをした後、ビジュアルエイドと共に声量、発音、アイコンタクトなどに注意しながら個人で発表をする。
プレゼンテー ション	5年 コミュニケー ション英語	教科書に基づいたテーマを用いて、カナダワークキャンプでの自身の体験を交えたプレゼンテーションを行う。
聞く・見る・読む ことによる解釈・ サマリー・インプ ロンプトスピー チ・エッセー	5年 コミュニケー ション英語	様々な媒体や内容の映像・会話・講義・記事等の一部を限られた回数・時間の中で理解し、内容理解の問題を解いたり、内容を簡潔に要約した上で自分自身の意見をエッセーやショートスピーチのフォーマットで述べる。
ディスカッショ ン・クリティカル リーディング	5年 コミュニケー ション英語	コミュニケーションを「アイデンティティと知覚」の視点から学習をした後、シチュエーションや作品から読み取れる内容を Discussion Question を基に話し合う。ファシリテーターも生徒が行う。
プレゼンテーショ ン・ディスカッ ション	5年 English Expressions	生命倫理の各分野についてグループでリサーチし、それぞれが先生となって45分間の授業を行う。授業の最後には生徒自身が考えた Discussion Question で Discussion をファシリテートする。
クリエイティブラ イティング・ピア リーディング	5年 English Expressions	美しい小説や映画の文章がどのように書かれているのかを学び、「いかに美しく書くか」について考える。また、実際に自分自身で書いたものを互いに読みあう。
文法、単語、発音 クリティカルリー ディング、ディス カッション	5年 DP English B	文化多様性、グローバルイシューズ、科学とテクノロジーといったトピックに基づいて様々な現代社会の問題について学び、自分の考えを伝えることを目的とする。また実社会で使える英語力目指して、様々なテキスト形態を学ぶ。

聞くことによる 解釈	6年 コミュニケーション英語	長文の内容に関係する現代的諸問題について教員が英語で講義を行い、その内容の理解度を図る。また、その内容に関して自分の考えを述べる。
詩・小説の読解	6年 コミュニケーション英語	いくつかの小説を読むことで Political Satire についての理解を深め、現実社会へどのように転移できるか考える。互いの理解や意見をディスカッションや文章で共有する。
プレゼンテーション・ディスカッション	6年 コミュニケーション英語	グループに分かれ、各グループの興味・関心のあるテーマについて調べ、クラスに40分間の授業をデザインし、実行する。必ずビデオ・新聞記事などの資料を提示し、内容を理解するために必要なボキャブラリーやディスカッションを盛り込むことを条件に含んでいる。
ディスカッション・小説の読解	6年 English Expressions	Dystopia を扱う小説をいくつか読み、現実社会の Dystopia についても学んだ上で、Perfect Society の在り方について議論する。
データアナリシス	6年 English Expressions	データを分析し、その内容について英語で的確に論じる手法や語彙について学ぶ。
エッセー・ブルー フ・クリティカル リーディング	6年 English Expressions	「Writing Application Essays」これまでの自分について自己分析をしたり、様々なサンプルエッセーの添削を行ったりすることを通じて自分自身の Application Essay を作成する。
プリペアド・スピーチ・データアナリシス	6年 English Expressions	スティーブ・ジョブズ、バラク・オバマ、キング牧師などの有名なスピーチを聞いたり、実際の原稿や How-to の記事などを読み、良いスピーチとはどのようなものなのかを分析する。その分析を活用し、自らスピーチを行う。
詩・小説の読解、 インタビュー、 クリエイティブ・ ライティング	6年 DP English B	これまで学んできた現代社会の事象に関する自分の考えを理論立てて伝えることを目指す。またあらゆる種類のテキストを読み、自ら書く。

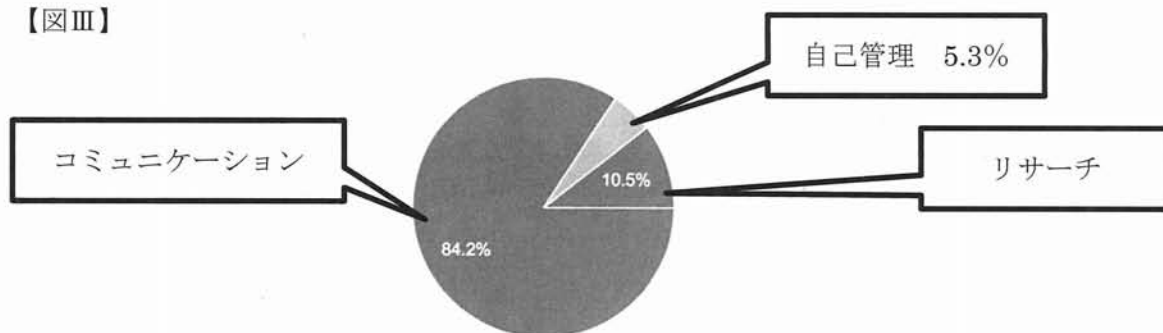
1. 生徒の外国語科学習内容・活動実践に対する意識調査の結果 (2017年11月アンケート実施 第4学年19名)

以下のアンケートは、試験的に実施したもので、4年生（高校1年生）のコミュニケーション英語 I の Basic クラスのうち1クラス19名に対してオンラインで行われた。調査対象となるクラスは、コンピューターのコンディションや実施可能なスケジュールといったことを考慮に入れて選んだ。なお、4年生のコミュニケーション英語 I は4年生全員が履修しており、Advanced クラスが2クラスで合計48名、Basic クラスが2クラスで38名、Core クラスも同じく2クラスで27名という構成になっている。

Q1. 英語の授業内の活動を通じて、入学後一番伸びたと実感する ATL スキルはどれですか。1つ選んでください。

- ①コミュニケーション ②社会性 ③自己管理 ④リサーチ ⑤思考

【図Ⅲ】

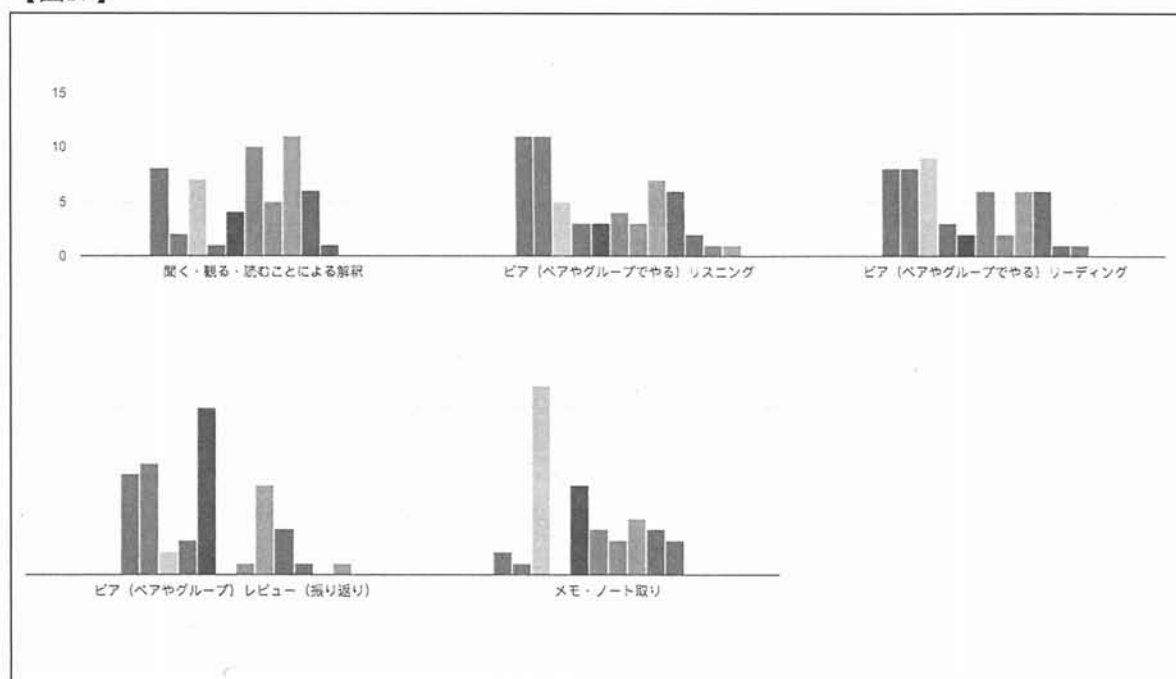


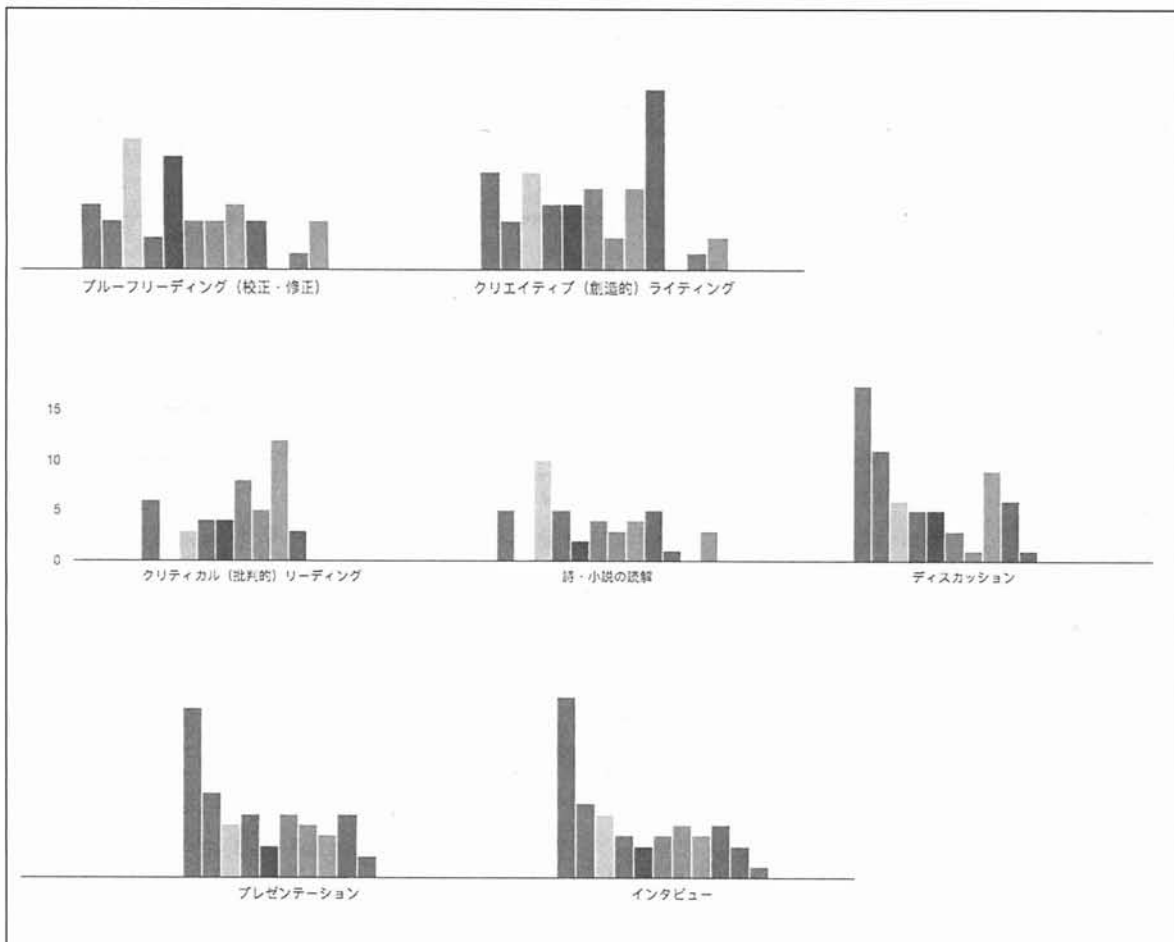
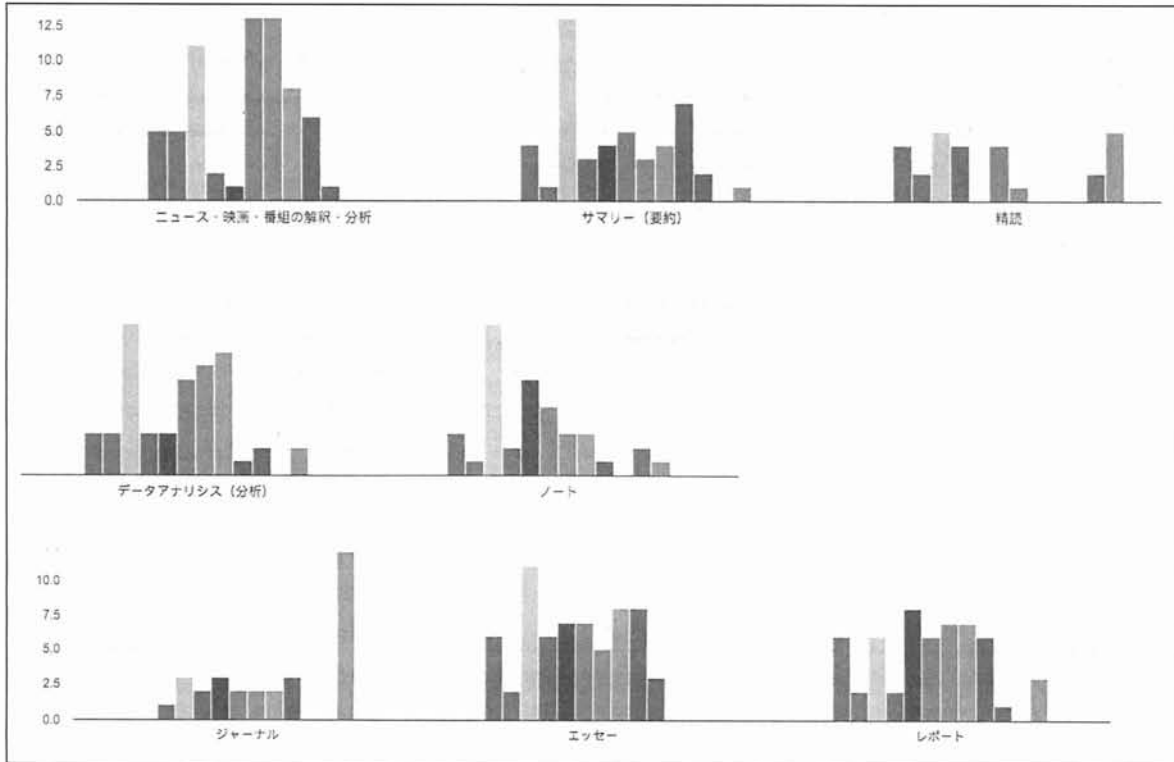
5つのATLスキルのうち、生徒が一番伸びたと実感しているのは、「コミュニケーションスキル」で、Q4で選んだATLスキルが一番伸びたと思う授業内の活動と照合してみると、ディスカッションが42.1%で最も多い。生徒たちは授業で取り上げた内容に関する話し合いを通して、一方通行ではない、やり取りを伴うコミュニケーションスキルが養われていると感じていることが分かる。

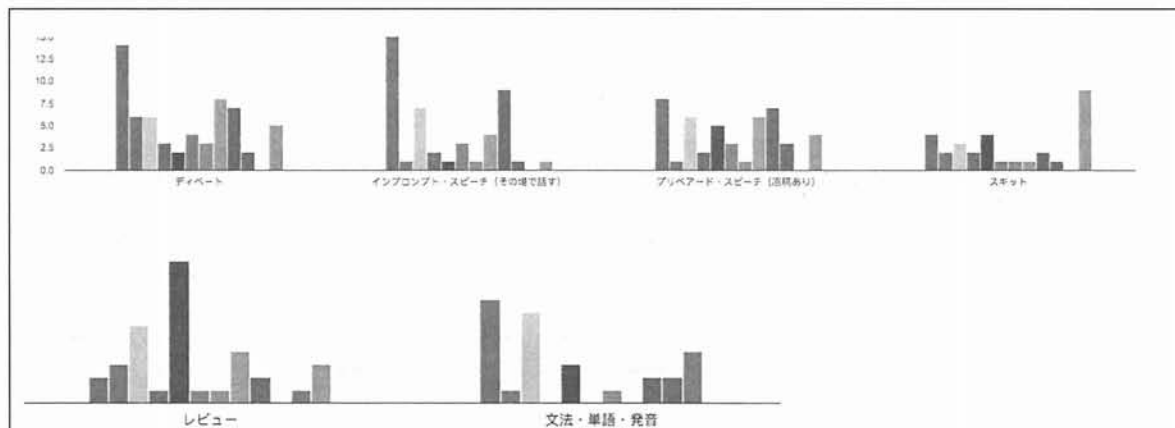
Q2. 以下の活動を通してどのATLスキルが伸びましたか。それぞれの活動において、10個のATLスキルからあてはまるすべてのスキルを選んでください。

- *左から順に①コミュニケーションスキル、②協働スキル、③整理整頓する力、④情動スキル、⑤振り返りスキル、⑥情報リテラシースキル、⑦メディアリテラシースキル、⑧批判的思考スキル、⑨創造的思考スキル、⑩転移スキル、⑪伸びていない、⑫体験していない

【図Ⅳ】





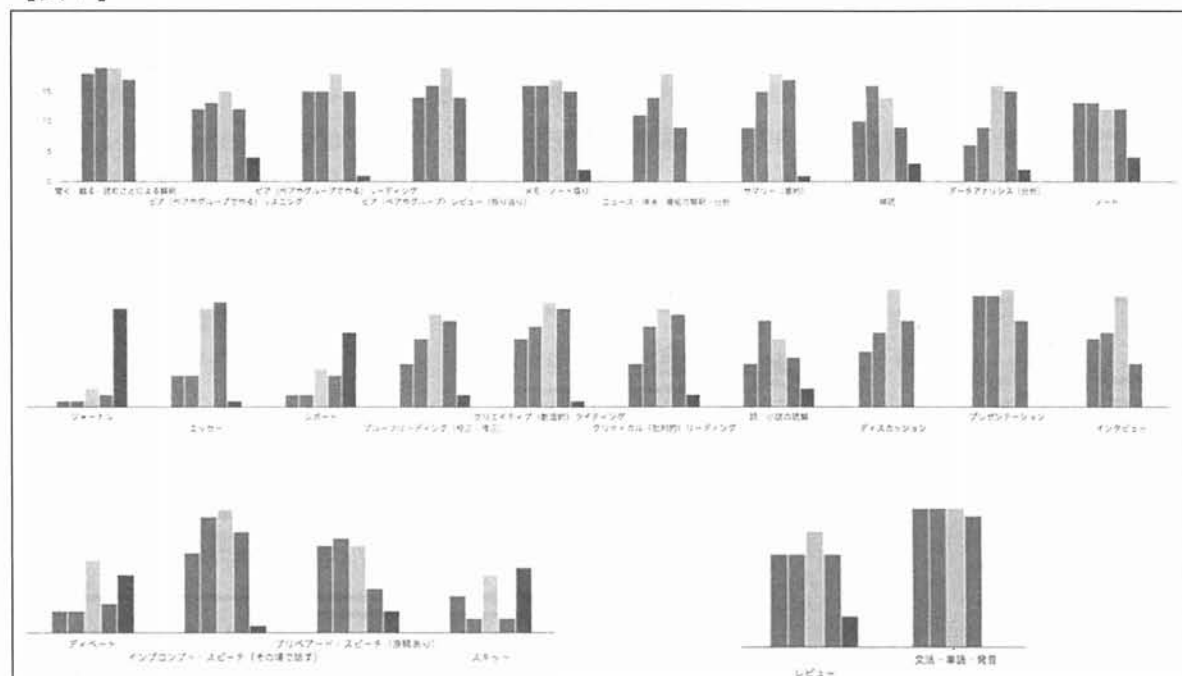


26種類の活動に関する生徒の意識調査の結果をしてみると、指導する教師側の意図と生徒の活動の目的に対する認識が概ね一致していることが分かる。しかしながら、今回試験的に一部の生徒に対するアンケート調査を実施した結果、今後本格的に生徒全体に調査を行う前に改善しなければならない問題点が浮かび上がってきた。一つは、それぞれの活動内容を確認することだ。例えば「精読」を「体験していない」と答えた生徒が一定数いるが、これは普段使い慣れていない「精読」という言葉の意味を取り違えた生徒がいたことに起因しているものと思われる。また、「レビュー」といった時に、教師側は様々な形式の復習という意味合いでこの言葉を使ったが、生徒たちの多くは「伸びていない」と答えており、双方の認識にずれがあることが分かった。

Q3. 以下の活動を何年生でしたのか、あてはまる学年全てを選んでください。

*左から順に①1年生、②2年生、③3年生、④4年生、⑤体験していない

【図V】



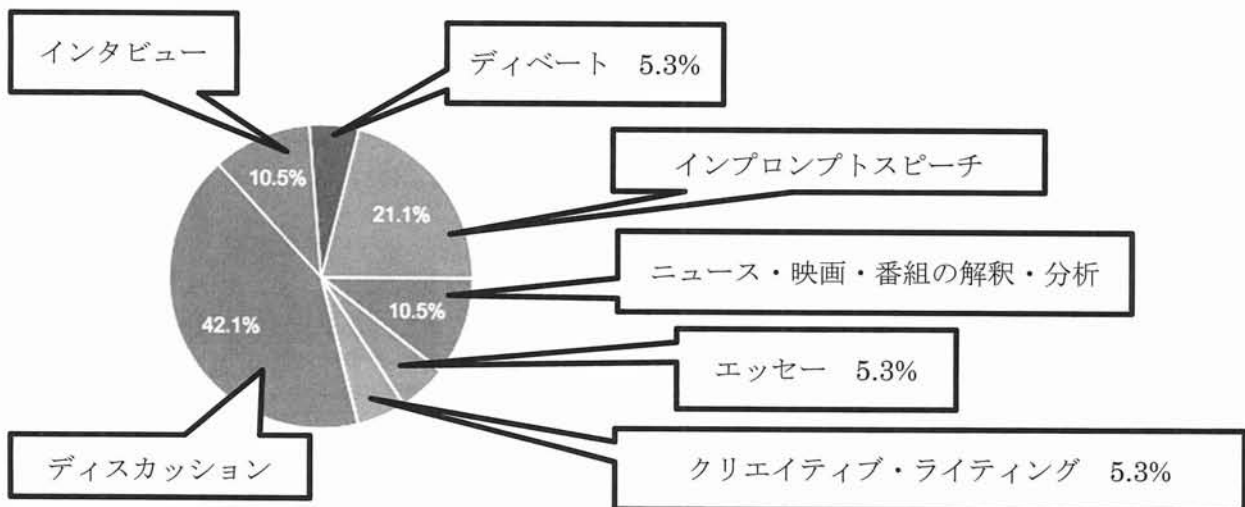
活動が行われた学年を上記のように答えているが、3年次で多くを活動したと答える生徒が大多数を占めている。これは、1・2年次で養った英語運用能力を用いて幅広い活動ができるようになるのが3年次であることも関係しているものと思われる。具体的には、分析やエッセー、ディスカッション、クリエイティブ・ライティングといった高度なスキルを必要とする活動が増えている。また、直近の終了した学年が3年次であることから、新しい記憶に関して記述しているという点で自然な流れと言えらる。

課題としては、1年次の活動に関しては、忘れてしまっている生徒が多いという点だ。今後、本格的に他学年に対しても同様のアンケートを実施する際には、各学年でどのような活動を行ったのかを振り返る時間を取り、正確なデータを入手できるようにするための工夫をしていきたい。また、Q2と同じように、活動の内容を改めて確認することで教師側の意図を正確に伝えた上で調査を実施する必要がある。

Q4. ATLスキルが一番伸びたと思う授業内の活動を一つ選んでください。

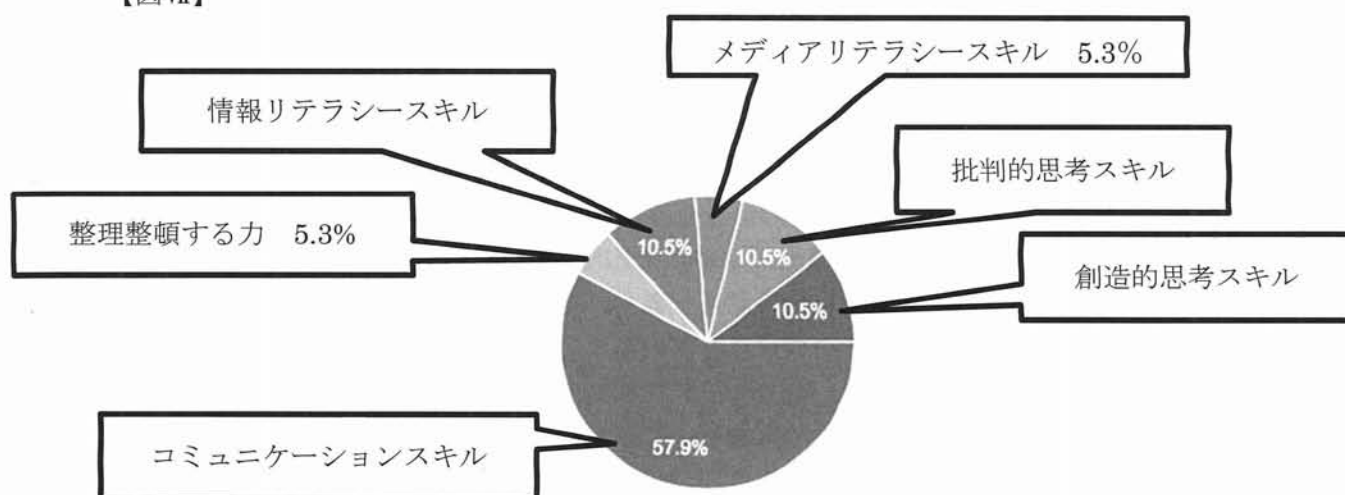
1. 聞く・観る・読むことによる解釈
2. ピア（ペアやグループでやる）リスニング
3. ピア（ペアやグループでやる）リーディング
4. ピア（ペアやグループでやる）レビュー（振り返り）
5. メモ・ノート取り
6. ニュース・映画・番組の解釈・分析
7. サマリー（要約）
8. 精読
9. データアナリシス（分析）
10. ノート
11. ジャーナル
12. エッセー
13. レポート
14. プルーフリーディング（校正・修正）
15. クリエイティブ（創造的）ライティング
16. クリティカル（批判的）リーディング
17. 詩・小説の読解
18. ディスカッション
19. プレゼンテーション
20. インタビュー
21. ディベート
22. インプロンプト・スピーチ（即興で話す）
23. プリペアード・スピーチ（原稿あり）
24. スキット
25. レビュー
26. 文法・単語・発音

【図VI】



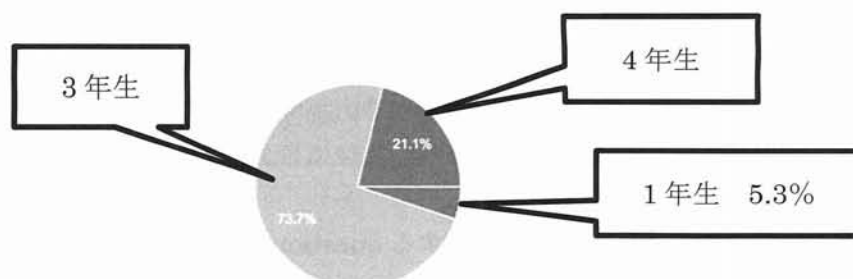
Q5. その活動を通じて伸びたと思う ATL スキルを選んでください。

【図Ⅶ】



Q6. その活動は何年生でしたか。

【図Ⅸ】



Q4 では、「ATL スキルが一番伸びたと思う授業内の活動」として 42.1%の生徒がディスカッション、次いでインプロンプト・スピーチを挙げているが、これは本校が 5 年次までに英語でのディスカッションスキルを育成することを長年目標として掲げて、1 年次からそのスキル育成を目指し、授業内で多くの時間を即興的に話す力を伸ばすことを目指した活動に費やしてきたことと関連があるのではないだろうか。そしてそのディスカッションやインプロンプト・スピーチの活動を通して過半数以上の生徒が「コミュニケーションスキル」を伸ばすことができたこと Q5 で答えていることから、外国語科として長年に渡り、特に「Communicators (コミュニケーションができる人)」の資質・能力に注目して授業内で様々な活動を組み入れて指導してきた成果が出ているものと思われる。Q6 に関しては、既に述べた通り、直近で終了した 3 年生で体験したと答えている生徒が大多数であるが、これは、1・2 年次で養った英語運用能力を用いて幅広い活動ができるようになるのが 3 年次であることも関係しているだろう。

Q7. その活動の内容について具体例を交えて説明してください。

*以下、類似した内容については割愛する。

- ・グループに分かれて現代の問題について意見を言い合いました
- ・三年生の時のディベートにて事前の下調べの時にインターネットを使い、活動に役立てた
- ・英字の新聞を読んで要約、質問
- ・教科書に基づいて、アンネ（ヒトラーの迫害）について、ディスカッションをした
考える時間が長かったので、多面的に問題意をとらえることができ、深いアイデアを出す
ことができた
- ・戦争や貧困についての問題を、グループでディベートした。様々な意見が出て面白かった
- ・その日に与えられた課題に対して自分の意見を書く。たとえば戦争についてだったら戦争に
関するいくつかの質問に対して自分の意見を書いた
- ・たとえば、三年の F 先生の授業で、K 先生と T 先生に出身国についてのインタビューを行っ
た。その時に、自分が聞いたばかりの情報をすぐ新しい情報、疑問と結び付けて自分で聞き
方を工夫して考えるということで、また自分が持っている情報の活用を考えることで、情報
リテラシースキルを伸ばしたと考えられる
- ・教科書の内容を決められた時間内で説明するというテストでしたが、その日のために家など
で何回も英語を勉強したので自分の英語力が向上したと実感したから
- ・Trouble Shooter という活動で、ペアになり一人が抱えている問題をもう一人が相手に寄り
添って解決策を提案するという活動を即興で行う
- ・地球環境などに対してエッセイを書いたが、限られた文字数の中で自分の意見や根拠を伝わ
るよう書く必要があったため整理整頓する力が伸びたのではないかと感じる
- ・ニュース記事を読み、それを簡潔に説明した後に自分の意見を述べる
- ・映像を見て感じたことを発表する
- ・定期的に行なっているレッスンに関係する question についてのディスカッション
- ・外国人の先生と即興(枠組みだけ考えて)話しました。向こうの反応によってこちらも瞬発的
にリアクションをし話さないといけないので、コミュニケーションスキルがとても伸びたと
思いました

生徒が挙げた活動の具体例を見ると、ATL スキルが最も伸びた活動として挙げられているディスカッションに関する記述が多い。さらにその内容に注目してみると、授業担当者がそれぞれの授業内でテーマや形式を変えてディスカッション活動を組み入れており、それらの活動を通して生徒がコミュニケーションスキルが向上したと実感していることが分かり、活動の目的が達成されていることが分かる。一番多く挙げた内容は、中学3年次に行われたアンネ・フランクに関するレッスンのまとめとしてのディスカッションであるが、これは冬休みの課題(歴史的背景の調査)から始まり、教科書の当該レッスンの学習、そして発展学習としてのディスカッションと、約3か月をかけた大きなユニットであったため、強く記憶に残っているようだ。しかしながら、既に述べたように、経年で過去にどのような活動が行われてきたのかを振り返る時間を取らずにこのアンケート調査を実施したため、結果に偏りがあることは否めない。この点は今後の課題としたい。

本稿では、外国語科の「学びの地図」作成の途中経過として、授業内で行われる様々な活動を通して、資質・能力の2つ目の要素であるATLスキルのどの部分がどのようにして養われているかということに対する教員・生徒双方の認識を、教員が示す学習内容・活動実践例と生徒へのアンケートを通じて推し量った。今後も引き続き、生徒へのアンケートをより大きな規模で実施し、その結果を基に教員と生徒が共通の目標を持つ授業づくりに取り組んでいきたい。

参考文献

『平成29(2017)年度TGUISS授業研究会』(2017年11月24日発行)

『平成28(2016)年度東京学芸大学附属国際中等教育学校研究紀要』(平成28(2016)年3月)発行)

An Approach to MYP Part 9

Approaches to Learning (ATL) Skills Acquired Through Various Activities

Abstract

At the Open Seminar on November 24th, 2017, we shared parts of our teaching practices to foster thinking skills (critical and creative). After the two open class meetings, we had an active discussion with the participants about these class meetings. This chapter includes the materials from the booklet published for this Open Seminar. In addition, the results and analysis of the questionnaire answered by the 4th grade students are cited.